



「志一步一步」(感謝こそ成長の糧)

学校長 小 邑 政 明

寒さが厳しかった冬が過ぎ、今年も校門の桜が開く、春爛漫の季節となりました。

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。保護者の皆様、立派に成長されたお子様の晴れ姿に接し、お喜びも一入のことと思います。ここまで育てられたご苦労に敬意を表し、心よりお祝い申し上げます。

さて、入学式にあたり生徒の皆さんと保護者の皆様に私の期待とお願いを述べたいと思います。

本校は、115年の歴史を持つ伝統校であり、今日では県下屈指の進学校となり、今年度も多くの先輩が自分の第一志望校に合格しました。また、在校生は部活動での活躍はもとより各種の大会やコンテスト、コンクールに積極的に参加して輝かしい実績を残しています。皆さんは、皆さんの努力で充実した学校生活を送ることができる学校に入学されました。

さて、平昌五輪のフィギュアスケート男子で、大けがを乗り越え連覇を果たした羽生結弦選手が男子フリーの演技の後、けがをしていた右足首を触るシーンがテレビに映し出されました。私は「羽生選手は、痛みをこらえながらよく頑張った」と心の中で拍手をおきました。しかし、後に、右足首に触っていたのは「ありがとう…右足」と感謝の気持ちを伝えていたのだと知って、私の胸に熱いものがこみ上げてきました。

そういえば、2年前の卒業生で、羽生選手

と雰囲気似ている生徒がいたことを思い出しました。彼は、あらゆる教科、特に数学が抜群にでき東京大学に現役で合格しました。彼は、廊下で先生方とすれ違うときは一歩さがってお辞儀をし、下校するときには、校舎に向かって礼をしていました。定期テストの前には、自分の勉強時間を削ってクラスメイトの質問に答えていました。自分を磨いてくれている先生、仲間、そして学校に対する感謝の気持ちを彼なりに表しているとある先生からうかがって、私はなんと素晴らしい生徒がいる学校に勤めさせていただいているのだろうと感謝の気持ちでいっぱいになりました。

そして、この二人に共通しているのは、「志」の強さと、その実現に向けて「一步一步」努力を積み重ねているところです。皆さんもこれからの学校生活や家庭生活で、「感謝の心」を常に持ち、「志」の実現に向けて「一步一步」進んでいってください。

最後に、保護者の皆様へのお願いを述べたいと思います。お子様にとってこれからは、心や身体が大きく成長する時期であり、将来立派な社会人となるための大切な時期です。

「千匹の魚を与えるより、一匹の魚の釣り方を教える」と言いますが、この教えを基本方針として、私達教職員とともにお子様の成長に関わっていただくことをお願いします。